

# 南海トラフ地震における半島・沿岸初動戦略検討会(伊勢志摩・東紀州エリア) 議事要旨

日時：令和6年6月24日(月) 14:00～15:30

場所：三重県松阪庁舎 6階大会議室

出席：中部地方整備局、三重県、伊勢市、尾鷲市、鳥羽市、熊野市、志摩市、  
玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町  
33名（WEB参加あり）

## 1. 議事

- (1) 規約確認
- (2) 本検討会の検討内容・位置づけ
  - 1) 令和6年能登半島地震の被害状況
  - 2) 令和6年能登半島地震に係る災害応急対応の自主点検レポート等
  - 3) 本検討会の趣旨
- (3) スケジュール（案）
- (4) 意見交換

## 2. 議事要旨

（意見交換）

- ・より具体的なシミュレーションを含めて計画をつくるということを理解した。
- ・モビリティトイレの配備など、避難所等の設備の充実をはかりたい。
- ・能登半島地震のように、復旧、支援について懸念。有人離島も抱えているため、離島をどのように救援していくか懸念。
- ・水道や道路等のインフラの寸断や物資輸送面が心配。
- ・道路の寸断により孤立集落が発生することや、水道管の耐震化が進んでいないことを懸念。
- ・職員が参集できる体制を整えることを念頭に訓練や計画を考えている。
- ・能登半島の地形と似ており、南海トラフ発生時は人命救助に対して非常に危惧している。
- ・能登半島地震でライフラインの被害が大きかったことも踏まえ、近隣自治体と災害協定を結んでいる。
- ・石川県の中能登町と災害応援協定を結んでいる。離れた市町との協定に対し、南海トラフの発災時の支援等を期待している。近隣市町とは地震に特化した協定は結んでいない。
- ・港を介した支援体制として「命のみなとネットワーク」の取り組みを進めている。海路を通じた支援体制の在り方や、民間の船舶とも連携しながら、支援体制の構築を検討している。
- ・津波被害が想定される地区では、付近に災害時生活用水として利用できる大きな配水池があり、支所の倉庫には水や食料を常時備蓄している。
- ・医療機関が脆弱であり入床ベッドの病院がない。災害時には医療機関や消防が重要になる。
- ・事前の備えが必要。被災時を想定した共通のタイムライン、優先すべき施設、とるべき行動について共通認識を持ち、行動計画を定めていきたい。

以上

## 検討会の様子

